

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



### 合田 直弘

この会報が皆様の御手元に届くのは、英国における24年の芝平地シーズンがスタートして間もなくの頃だ。クラシック第1弾の二千ギニー・千ギニーまで1カ月余り、第2弾のオークス・ダービーまで2カ月余りとなり、ファンはブックメーカー各社が発表しているアンティポストベットのオッズを凝視しつつ、来るべきクラシック戦線における「推し馬」の選定に、余念がない季節を迎えている。

アンティポストベットのリストには、メイドンを勝っただけの1勝馬や、いまだデビューをしていない未出走馬も含まれていて、そんな中から「隠れた大器」を見つけ出すのが、ファンの醍醐味となっている。

例えば、ダービーのオッズで多くの社が26倍、ベット365が34倍を提示しているユーフォリック(牡3、父フランケル)は、昨年10月4日にアイルランドのナウヴァン競馬場で行われたメイドン(芝8F)でデビュー勝ちし、その1戦のみで2歳シーズンを終えている馬だ。スタートダッシュは鈍く、序盤は12頭立ての後方に置かれた後、鞍上に促されて8番手外目を追走。残り3Fの手前から鞍上が激しく動いて追い込み態勢に入ったものの、反応は芳しくなかったが、残り1Fを切る頃からようやくエンジンが掛かると、そこから追い込み2着馬とは短頭差という辛勝ながら、

初陣を白星で飾った。叔母に、重賞3勝馬でG1フリーズマイル(芝8F)2着などの実績を残したファンタジア、従兄弟にG1マンノウォース(芝11F)勝ち馬ハイランドチーフがいる牝系の出身で、タタソールズ10月1歳市場にて190万ギニー(当時のレートで約3億3560万円)でクールモアとホワイトバーチのパートナーシップに購買されている。管理するのは、ここまで通算9勝という英ダービーの歴代最多勝調教師のエイダン・オプライエンだ。

あるいは、ダービーのオッズでラドブロークスが21倍、他社の多くが26倍のオッズを提示しているロードシヨウ(牡3、父ガリレオ)。こちらはクールモアによる自家生産馬で、管理するのはフランスの伯楽アンドレ・ファーブルである。G2クイーンメアリーS(芝5F)に勝ち、G1ナントソープS(芝5F)で2着となったアカブルコの3番仔となる同馬は、10月30日にサンクルー競馬場で行われたメイドン(芝1500M)でデビュー。道中は2番手につけ、直線入口で先頭に立つという、ステッキが1発入っただけで他馬を3/1馬身突き放す、余裕のレース振りでのデビュー勝ちを飾っている。

この原稿を書いている3月上旬の段階ではまだデビューもしていないのに、ラド

ブロークスやコーラルがダービーに向けて34倍のオッズを提示しているのが、ここまで英ダービー7勝の実績を誇るサー・マイケル・スタウトが管理するミッショントウマーズ(牡3、父シーザスター)だ。G2ボモーン賞(芝2500M)勝ち馬バインホープの5番仔で、タタソールズ10月1歳市場に上場されたところ、03年にクリスキンで、22年にデザートクラウンで英ダービーを制している馬主サイド・スハイル氏の代理人に、50万ギニー(当時のレートで約8423万円)で購買されている。

今年の英ダービーには、2月27日に締め切られた第一次登録の段階で、日本から友道康夫厩舎のジャスティンミラノ(牡3、父キズナ)がエントリーを済ませている。G3共同通信杯(芝1800M)を制している同馬は、日本の競馬ファンには馴染みの存在だが、イギリスのファンからすると、現段階では未出走のミッショントウマーズと同じくらい「未知数」な馬であるはずだ。そのジャスティンパレスに、ウイリアムヒルは15倍、コーラルやラドブロークスは17倍のオッズを掲げ、いずれも5番人気に支持している。日本調教馬の水準が、極めて高く評価されている証左であろうと思う。